

平成30年

消防年報

鹿児島県

薩摩川内市消防局



薩摩川内市民憲章

美しい自然と 古い歴史を誇りとする
わたしたち薩摩川内市民は

やさしくすれば 心はかよう
はなしをすれば だれでもわかる
考えさえすれば みちはひらける
やりさえすれば かならずできる
という信条をもって

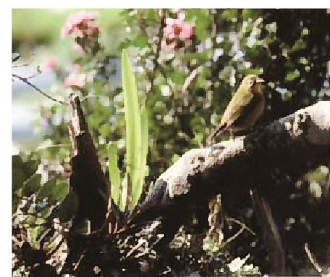
明るく豊かなまちをつくります



市木 クログネモチ



市花 カノコユリ



市鳥 メジロ



市魚(川) アユ



市魚(海) キビナゴ

は し が き

この年報は、薩摩川内市消防局の現勢と平成30年中における消防業務に関する諸般の事項を収録し、将来の参考とするとともに消防事情を広く一般に紹介するために編集したものです。

なお、この年報の統計資料は、原則として暦年をもって表し、予算に係りのある事項については、会計年度で作成し、それ以外のものについては当該表にそれぞれ記載した年月日を表してあります。

令和元年7月

薩摩川内市消防局

目 次

I. 総括

1. 薩摩川内市消防局管内の位置と地勢 1
2. 消防本部・署の沿革 2

II. 総務

1. 薩摩川内市消防局の組織 6
2. 消防本部・署の事務分掌 7
3. 消防庁舎の概要 11
4. 消防大学校等入校・各種研修参加状況 14
5. 職員の階級別年齢状況 15
6. 職員の勤続年数状況 16
7. 職員の配置状況 17
8. 薩摩川内市消防局相互応援協定 18
9. 予算の比較 19
10. 消防費と人口の比較 19
11. 消防費の内訳 19
12. 消防職員特殊技能その他資格取得状況 20

III. 予防

1. 地域別火災発生状況 21
2. 月別火災発生状況 22
3. 時間別火災発生状況 23
4. 原因別火災発生状況 23
5. 火災発生件数の推移 24
6. 火災損害見積額の推移 24
7. 防火対象物現況 25
8. 建築同意事務処理状況 26
9. 防火対象物定期点検報告制度実施状況 27
10. 中高層建築物一覧表 27
11. 諸届出書の処理状況 28
12. 予防査察実施状況 29
13. 地域別危険物施設現況 30
14. 危険物施設の数量及び類別状況 31
15. 危険物施設の許可等処理状況 32
16. 危険物施設の立入検査実施状況 33

IV. 警防

1. 消防水利状況 34
2. 消防車両等の概要 35
3. 救急、特殊資機材等の装備状況 36
4. 無線配備状況 46
5. 気象状況(薩摩川内市消防局本部庁舎屋上) 49

V.救急及び救助

1. 地域別救急出場状況	50
2. 月別救急出場状況	50
3. 年齢区分別搬送人員	51
4. 時間別出場状況	52
5. 曜日別出場状況	52
6. 月別出場状況	52
7. 救急隊員の行った応急処置状況(搬送者のうち)	53
8. 不搬送原因別出場件数	53
9. 地域別救急出場状況	54
10. 搬送人員の推移	54
11. 住民に対する応急手当普及啓発活動状況	55
12. CPA患者社会復帰状況	55
13. 事故種別救助活動状況	56
14. 事故種別出場及び活動車両状況	56

VI.消防団及び消防協力団体

1. 薩摩川内市消防団の組織	57
2. 消防団員定数及び実員	58
3. 消防団員の年齢	58
4. 方面隊別団員数	58
5. 消防団員の勤続年数	58
6. 消防団車両の概要	59
7. 小型ポンプの概要	61
8. その他、消防行政協力団体	63
9. 特殊施設	65

付録

● 消防本部・署の沿革(川内市消防本部)	68
● 消防本部・署の沿革(川内地区消防組合)	69

I. 総括

1. 薩摩川内市消防局管内の位置と地勢

薩摩川内市は、薩摩半島の北西部に位置し、南は県都鹿児島市といちき串木野市、北は阿久根市に隣接する本土区域と、上甑島、中甑島、下甑島で構成される甑島区域で構成されています。

東シナ海に面した変化に富む白砂青松の海岸線、市街部を悠々と流れる一級河川「川内川」、藺牟田池をはじめとするみどり豊かな山々や湖、地形の変化の美しい甑島、各地の温泉など、多種多様な自然環境を有しています。

本市が有するこれらの多彩で美しい自然環境は、平成27年3月16日に指定された甑島国立公園をはじめ、川内川流域県立自然公園、藺牟田池県立自然公園など、広く市民に親しまれています。

この広域に及ぶ当局管内面積は682.92km²です。

消防本部の位置 東経 130° 18'
北緯 31° 49'



2. 消防本部・署の沿革

年	月	概 要
平成16年	10月12日	薩摩川内市が誕生し、薩摩川内市消防局発足
	10月12日	伊豫田輝雄初代消防局長就任
	10月12日	東部消防署 祁答院分署運用開始
	11月17日	救急救命士17人となる
平成17年	4月1日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から携帯用無線機15基、空気呼吸器1式、空気呼吸器用ボンベ10本の貸与を受ける
	5月9日	救急救命士18人となる
	6月9日	緊急消防援助隊全国合同訓練参加(静岡県静岡市清水区)～12日
	10月1日	西部消防署高規格救急車等による高度救急業務を開始
	11月4日	東部消防署 祁答院分署新庁舎落成式挙行
	11月21日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(沖縄県うるま市)～24日
平成18年	11月24日	救急救命士19人となる
	1月15日	伊豫田輝雄消防局長退任
	1月16日	桑原道男第2代消防局長就任
	2月21日	アステラス製薬株式会社から救急自動車(2B)の寄贈を受ける
	4月1日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器6基、空気呼吸器用ボンベ10本、空気呼吸器用面体40個の貸与を受ける
	5月22日	救急救命士21人となる
	6月1日	「住宅用火災報知機」の設置が義務づけられる
	7月22日	鹿児島県北部豪雨災害(消防職員・消防団員 延 1,252 人出場)～23日
	10月20日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(北九州市)～21日
	12月7日	総務省消防庁主催「第9回全国消防広報コンクール」広報紙部門優秀賞受賞
平成19年	1月23日	鹿児島県防災航空隊と合同練習
	4月1日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器6基、空気呼吸器用ボンベ10本、空気呼吸器面体40個、液晶プロジェクター1台、防護マスクフィルター532個の貸与を受ける
	5月14日	救急救命士24人となる
	5月16日	鹿児島県防災航空隊と合同練習
平成20年	10月12日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(大分県中津市)～13日
	1月14日	桑原道男消防局長退任
	1月15日	上村健一第3代消防局長就任
	4月1日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器用ボンベ10本、空気呼吸器面体10個、エアータン32基、放射性廃棄物用ドラム缶1個、サーベイメーター用アルミ収納ケース4個、防護マスクフィルター794個、ポケット線量計3個の貸与を受ける
	4月28日	救急救命士26人となる
	9月12日	鹿児島県防災航空隊と合同訓練
平成21年	11月21日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(長崎県佐世保市)～22日
	4月1日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器6基、空気呼吸器面体30個、空気呼吸器用ボンベ10本、エアータン5基、防護マスク195個、防護マスクフィルター1000個、防護服(アノラック型、タイベック型)50着、液晶プロジェクター1台、DVDプレーヤー5台、液晶プロジェクターケース1個、ポケット線量計20個、携帯無線機用スピーカーマイク15個の貸与を受ける
	4月14日	救急救命士28人となる
	8月26日	鹿児島県防災航空隊と合同訓練
	10月9日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(佐賀県佐賀市)～10日
平成22年	11月16日	東部消防署 高規格救急車を更新
	2月15日	中央消防署下甕分駐所新庁舎運用開始
	3月31日	中央消防署南部分署 大型高所放水車を更新
	4月1日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器2基、空気呼吸器面体30個、空気呼吸器用ボンベ10本、デジタルカメラ1台、防護マスクフィルター

2. 消防本部・署の沿革

年 月	概 要
	100 個の貸与を受ける
5 月 1 日	救急救命士29人となる
6 月 4 日	緊急消防援助隊全国合同訓練参加(愛知県知多市)～5日
8 月 30 日	西部消防署 大型化学消防車を更新
10 月 8 日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練を実施(薩摩川内市)～9日
11 月 10 日	支援車Ⅰ型を総務省消防庁から緊急消防援助隊登録車両として無償貸与を受ける
11 月 29 日	東部消防署 水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成23年 2 月 24 日	西部消防署 泡原液搬送車を更新
3 月 14 日～23 日	平成23年3月11日14時46分に発生した東日本大震災「東北地方太平洋沖地震」における災害対応に、緊急消防援助隊鹿児島県隊として総務省消防庁から派遣要請を受け、延べ20人出場(派遣先:宮城県石巻市)
4 月 1 日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器2基、空気呼吸器用ポンベ10本、容器呼吸器面体30個、デジタルビデオカメラ1台、ノートパソコン1台、化学防護服2着、防護マスクフィルター600個、防護服(アノラック型)200着、防護服(タイベック型)200着、チオックス手袋40ダース・綿手40ダース、防護靴80足、オーバーシューズ200足の貸与を受ける
4 月 1 日	簡易携帯・IP電話位置情報システムの運用開始
4 月 1 日	総務省消防庁無償貸与「緊急消防援助隊活動資機材」個人線量計15個、線量率計(γ線・X線)4台、線量率計(中性子用)1台
5 月 1 日	救急救命士30人となる
10 月 1 日	祁答院分署救急車に高度救命処置用資機材を搭載、救急救命士4人を配置し、運用開始
11 月 4 日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(宮崎県宮崎市)～5日
12 月 16 日	鹿児島県ドクターヘリ運用開始
平成24年 1 月 30 日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から空気呼吸器2基、空気呼吸器用ポンベ5本、空気呼吸器面体2個、化学防護服2着の貸与を受ける
3 月 2 日	下甌分駐所 救急車を更新
3 月 9 日	西部消防署 水槽付消防ポンプ自動車を更新
3 月 13 日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から防護マスクフィルター1430個、GM防護マスク85個の貸与を受ける
4 月 1 日	総務省消防庁無償貸与「緊急消防援助隊活動資機材」救助用破壊器具(バッテリー一式)1式受領
5 月 1 日	救急救命士32人となる
6 月 27 日	総務省消防庁無償貸与「緊急消防援助隊支援資機材」エアーテント1式受領
10 月 1 日	総務省消防庁無償貸与「緊急消防援助隊活動資機材」個人線量計6個、線量率系(γ線・X線)2台、表面汚染調査計1台受領
11 月 17 日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(熊本県八代市)～18日
11 月 28 日	燃料補給車配備(総務省消防庁無償貸与・緊急消防援助隊登録車両)
平成25年 2 月 18 日	中央消防署 はしご付消防ポンプ自動車を更新(先端屈折型30m級、四輪操舵式導入)
3 月 22 日	総務省消防庁無償貸与 重機搬送車(クレーン付き)・建設機械(5トン重機 アタッチメント付)
3 月 25 日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から、防護服(タイベック型)510着、防護靴40足、オーバーシューズ725足、チオックス手袋34ダース、綿手41ダース、作業帽142袋、エプコテープ10ダース、ポケット線量計(PDM-222V 型)250個、サーベイメータ(シンチレーション式 TCS-172B)2台の貸与を受ける
8 月 16 日	京都府福知山市花火大会露店爆発事故を教訓に、露店防火指導査察をはじめ。
11 月 25 日	消防団120年、自治体消防65年記念大会へ参加
平成26年 2 月 20 日	中央消防署 高規格救急車を更新
3 月 12 日	上甌分駐所 救急車を更新
3 月 31 日	上村健一消防局長退任
4 月 1 日	新盛和久第4代消防局長就任

2. 消防本部・署の沿革

年 月	概 要
	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から、原子力災害活動用防護服一式、キャビネット2基、GM管サーバイメータ(TCS-146B)2台、ポケット線量計52個の貸与を受ける
7月18日	消防本部・中央消防署新庁舎運用開始 高機能消防指令センター運用開始
7月22日	新旧消防庁舎にて閉庁式及び開庁式を開催
7月26日	薩摩川内市消防局消防本部・中央消防署落成式を開催
8月1日	防災研修センター本格運用開始
11月6日	消防総務課 連絡車を更新 予防課 予防指導車を更新
11月22日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(福岡県久留米市)～23日
平成27年 3月17日	南部分署 水槽付消防ポンプ自動車を更新
5月7日	救急救命士36人となる
5月29日	口永良部島新岳の爆発的噴火が発生し、鹿児島県消防救助技術指導会が競技途中で中止となる
7月4日	消防救急デジタル無線仮運用開始
8月18日	コアガスグループから消防指令車の寄贈を受ける
9月16日	防災研修センターの利用者1万人達成
11月7日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(大分県佐伯市)～8日
11月11日	緊急消防援助隊全国合同訓練参加(千葉県市原市)～16日
12月10日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県からGM管式サーバイメーター3台の貸与を受ける
平成28年 1月19日	消防救急デジタル無線の本格運用並びに運用開始式を開催
3月23日	予防課 火災原因調査車を更新
3月24日	警防課 本部指揮隊車を更新
4月1日	消防局150人体制となり、上甕分駐所並びに下甕分駐所に職員をそれぞれ1人増員し、各分駐所6人体制となる
4月15日～28日	4月14日21時26分に発生した震度7の地震を前震とする「平成28年熊本地震」における災害対応に、緊急消防援助隊鹿児島県隊として延べ31人出場する
4月27日	救急救命士37人となる
6月1日	株式会社大和から小型バスの寄贈を受ける
11月5日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(長崎県雲仙市)～6日
12月13日	海上保安庁と合同潜水訓練を実施する
平成29年 1月7日	消防出初式において木遣り歌を初披露
2月20日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から、空気ボンベ20本、原子力災害活動用防護服一式の貸与を受ける
3月17日	中央消防署 高規格救急車を更新
4月1日	消防局154人体制となる
4月1日	横浜市消防局に職員1人を派遣する
5月1日	救急救命士39人となる
平成30年 1月7日	消防出初式においてはしご乗りを初披露
1月31日	下甕分駐所 連絡車を更新
2月28日	東部消防署、西部消防署 指揮車を更新
3月28日	中央消防署 水槽付消防ポンプ自動車を更新
4月1日	消防局157人体制となる
4月1日	昨年度に引き続き横浜市消防局に職員1人を派遣する
4月17日	株式会社サンテックから無人航空機(ドローン3機)の寄贈を受ける
5月1日	救急救命士43人となる
平成31年 1月12日	消防出初式において薩摩川内火けし保存会(木遣り隊、はしご隊、纏隊、腕用ポンプ隊)による合同演技を披露
1月31日	消防総務課 連絡車を更新

2. 消防本部・署の沿革

年	月	概	要
平成31年	2月12日	中央消防署	指揮車を更新
	3月22日	下甗分駐所職員待機宿舎(借上型住宅)	完成
	3月28日	消防総務課	資機材搬送車を更新
	4月1日	消防局	155人体制となる
	4月1日	横浜市消防局	に職員1人を派遣する
令和元年	5月23日	伊藤二作氏から高規格救急車及び救急資機材の購入費として寄附を受け、東部消防署	高規格救急車を更新